

尼崎市立学校の令和2年度いじめの 認知状況について

1 いじめの認知件数

<尼崎市立学校における認知件数>

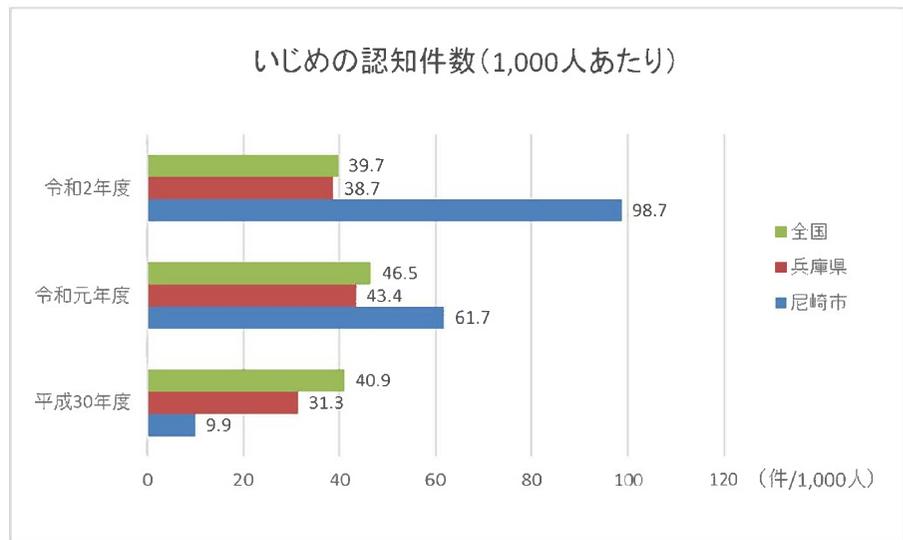
- ・令和2年度の件数は、小学校で2,744件、中学校で472件、高等学校で16件、合計3,232件。
- ・年々増加傾向にあり、平成30年度と比べて、令和2年度の件数は約10倍。

<兵庫県や全国における認知件数>

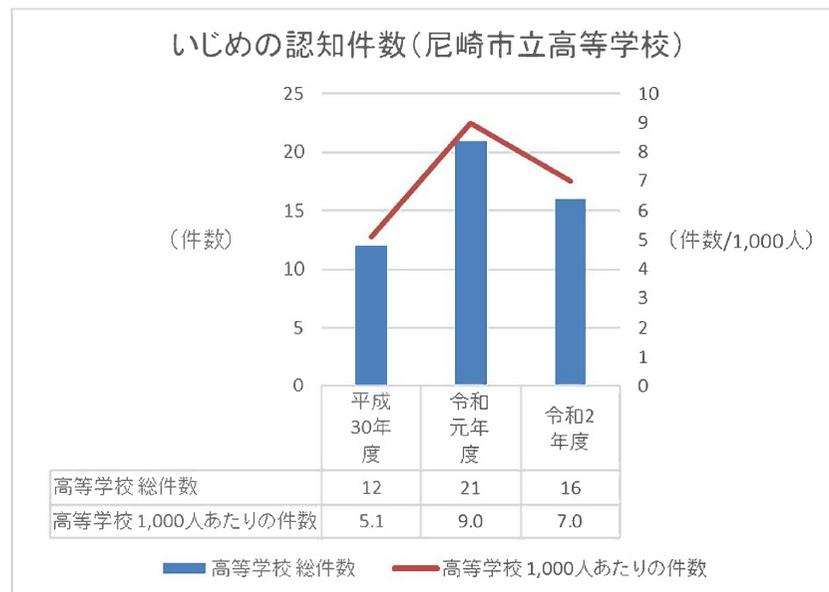
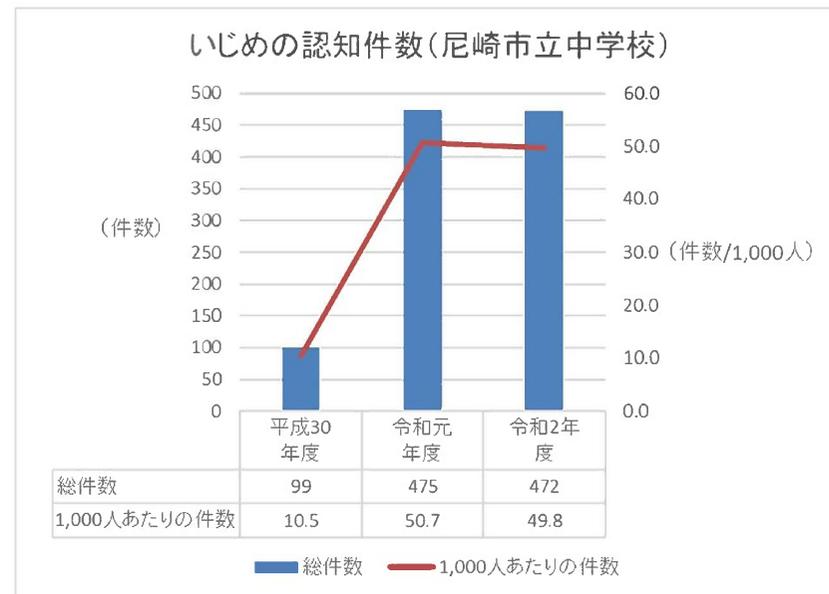
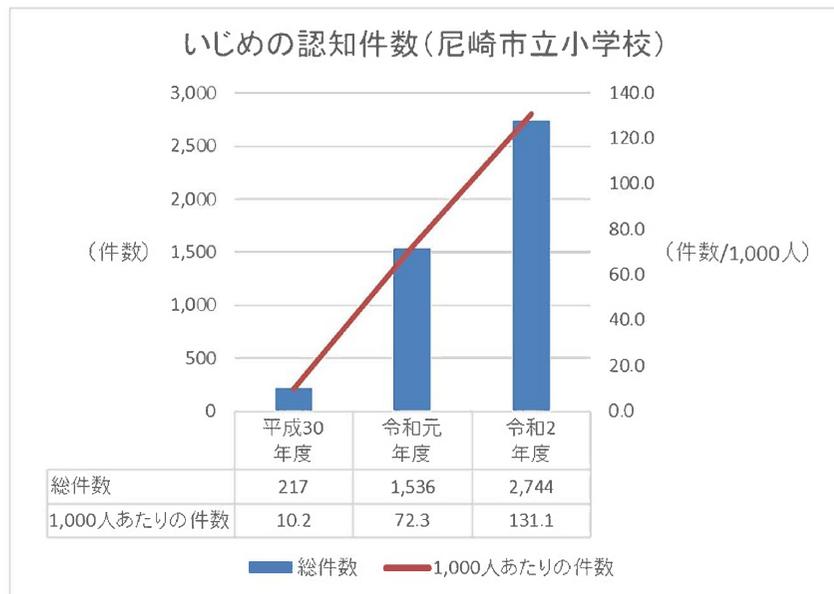
- ・兵庫県と全国のどちらにおいても、年々増加傾向にあったが、令和2年度の件数は昨年度より減少した。

<考えられる要因等>

- ・全国的に、積極的ないじめの認知を進めている。
- ・尼崎市では、“いじめ認知報告書”を簡略化し、学校から市教育委員会への報告が速やかにできるよう改善した。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業や対面でのコミュニケーションや活動が制限されていた。



(資料) いじめの認知件数 (小・中・高)



2 いじめの発見のきっかけ

<発見のきっかけの推移>

・令和2年度では、「アンケート調査などの学校の取組により発見」が最も高く、次いで「児童生徒(本人)からの訴え」と「保護者(本人を除く)からの情報」が多くなる傾向。

・発見のきっかけになりやすいのは、いじめに関わる当事者やその保護者から発信されるSOS。

・構成比の波形が、令和元年度と令和2年度は類似。

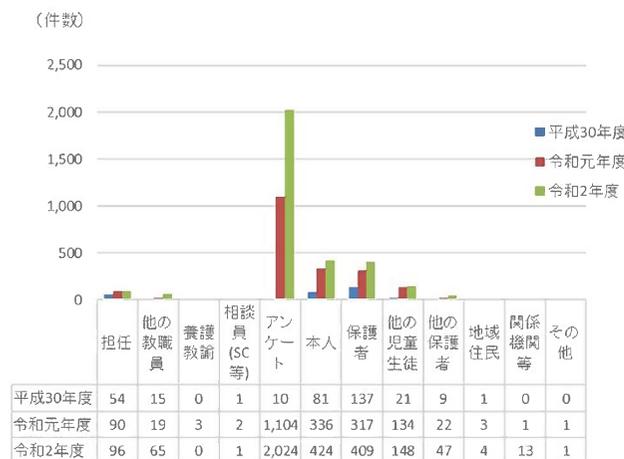
<必要な取組み等>

・周囲の大人が子どもたちのSOSを受け止めて、組織的対応を行い、外部の関係機関等に繋げて対応していく。

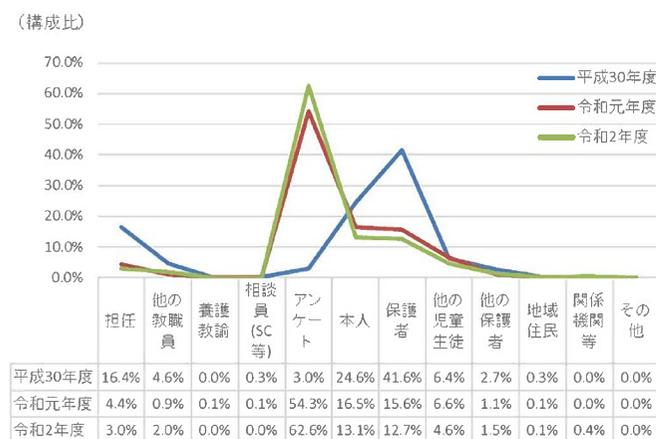
・個々の児童生徒の状況に応じて、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)、家庭や地域をも巻き込んだ、未然防止や早期発見に取り組む。

・生活環境の変化に対し、不安や悩みを相談できない子どもたちがいる可能性を知っておく。

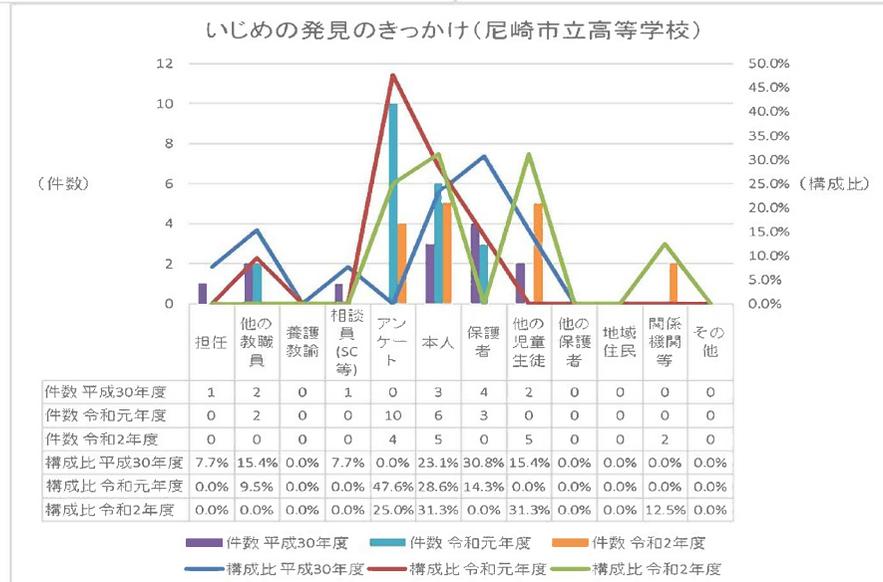
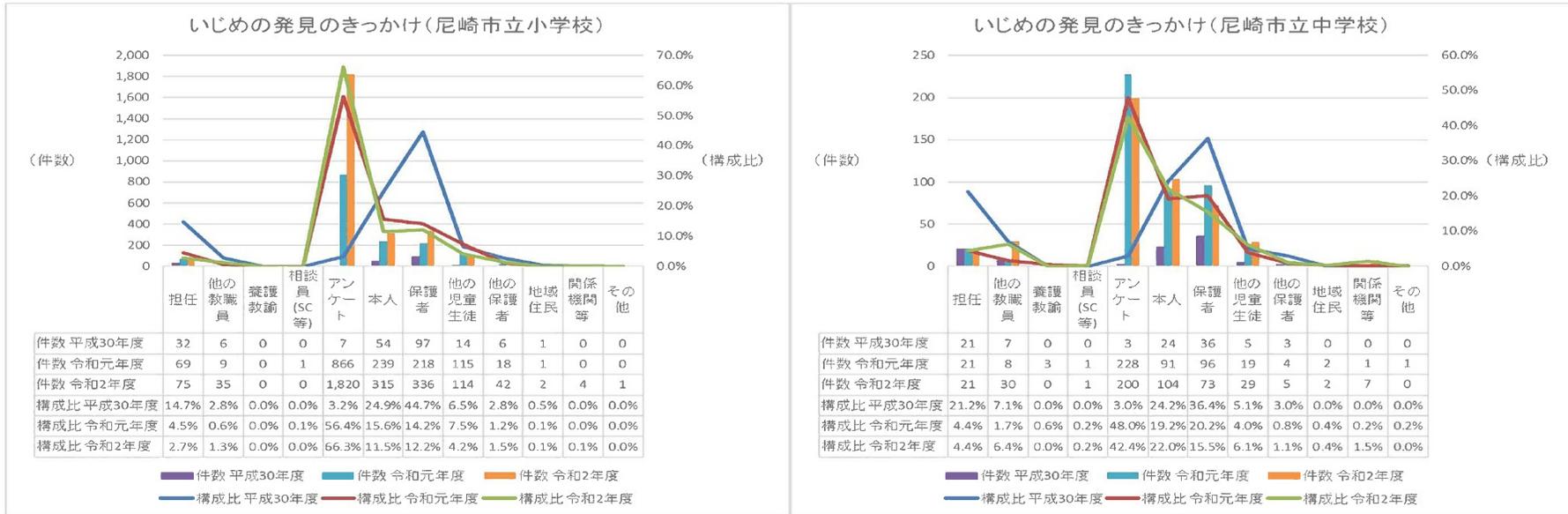
いじめの発見のきっかけ(尼崎市:件数)



いじめの発見のきっかけ(尼崎市:構成比)



(資料) いじめの発見のきっかけのH30～R2推移 (小・中・高)



3 いじめの態様

<態様の構成内訳>

・令和2年度では、尼崎市、兵庫県や全国で共通して、構成比の半数近くが「冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」。

・次いで、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」の構成比が高い。

・高等学校は、「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」の構成比が、他の校種より高い。

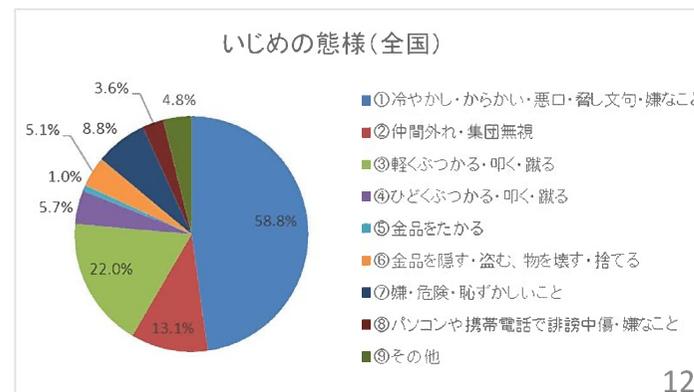
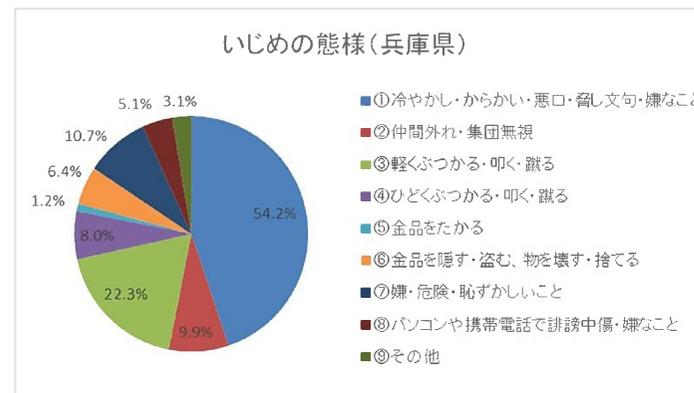
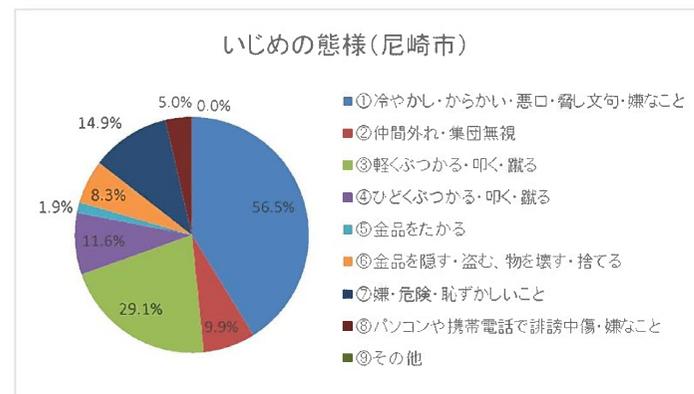
<進めている取組み等>

・SC(スクールカウンセラー)によるストレスマネジメントやアンガーマネジメントなどの、心の安定が図られる働きかけ。

・警察や通信事業者と連携した情報モラル教育。

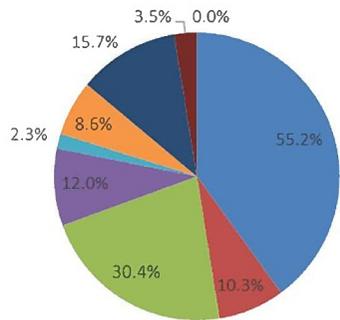
・スマートフォン等の扱いに関して、児童生徒が主体的にルール作りを行うための情報モラル教育の出前授業。

・情報モラル教育支援員派遣事業。



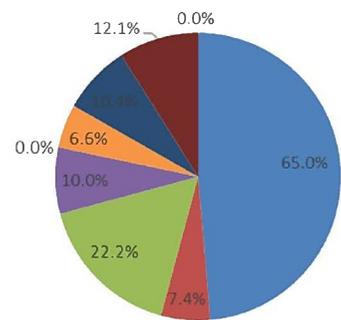
(資料) いじめの態様のR2内訳 (小・中・高)

いじめの態様(尼崎市立小学校)



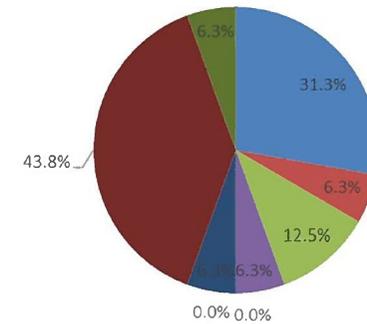
- ①冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと
- ②仲間外れ・集団無視
- ③軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ④ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ⑤金品をたかる
- ⑥金品を隠す・盗む、物を壊す・捨てる
- ⑦嫌・危険・恥ずかしいこと
- ⑧パソコンや携帯電話で誹謗中傷・嫌なこと
- ⑨その他

いじめの態様(尼崎市立中学校)



- ①冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと
- ②仲間外れ・集団無視
- ③軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ④ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ⑤金品をたかる
- ⑥金品を隠す・盗む、物を壊す・捨てる
- ⑦嫌・危険・恥ずかしいこと
- ⑧パソコンや携帯電話で誹謗中傷・嫌なこと
- ⑨その他

いじめの態様(尼崎市立高等学校)



- ①冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと
- ②仲間外れ・集団無視
- ③軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ④ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ⑤金品をたかる
- ⑥金品を隠す・盗む、物を壊す・捨てる
- ⑦嫌・危険・恥ずかしいこと
- ⑧パソコンや携帯電話で誹謗中傷・嫌なこと
- ⑨その他